

おもてなしの心で 白石川河川敷清掃



▲小さなゴミまで丁寧に拾い集める地域の皆さん。

▲堤防に溜まった土もきれいに掃きました。

3月19日、お花見シーズンを前に、白石川河川敷や大河原駅前広場などの一斉清掃が行われました。当日集まった各行政区などの町民ボランティアの皆さんは、ゴミ袋を片手に空き缶やペットボトルなどのゴミを拾い集めたり、落ち葉をほうきなどで掃いたり、流木を撤去したりと、河川敷周辺を見違えるようにきれいになりました。早朝にもかかわらず大勢の皆さんにご協力いただき、ありがとうございました。桜の開花時期には、町内外のたくさんの皆さんにきれいな環境でお花見を楽しんでもらえることでしょう。

～あなたのまちづくり活動を応援します～

平成 23 年度

「元気なまちづくり活動事業」を

大募集します



募集の内容・応募方法

- ◆対象グループ
町内で活動する5人以上で構成される住民グループやボランティア団体など
- ◆対象活動
町内で自主的に実施される事業で、特定の人の利益につながらない公益的な活動
- ◆支援内容
活動に要する必要経費の一部に補助金を交付（補助対象経費の4分の3以内で限度額10万円）
- ◆対象経費
活動に必要な「材料・資材費」「消耗品」「印刷代」「講師・出演者の謝礼」「会場使用料」など。団体の恒常的な維持・運営に要する経費やスタッフの人件費などは対象外
- ◆必要書類
申請書団体の概要調書、活動計画書、収支予算書など
- ◆審査と決定
町の選考委員会で審査と選考を行い、補助金を交付する「まちづくり活動事業」を決定
- ◆選考基準
①多くの町民の利益などにつながるか
②活動計画に創意工夫がされているか
③計画や経費の妥当性など
- ◆活動報告
活動終了後1か月以内に「活動実績報告書」を提出する

～応募手続～
 ◇募集期間：4月11日(月)～5月13日(金)
 ◇募集要項・申請書
町役場企画財政課で配布するほか、町のホームページからダウンロードできます。
 ◇審査：5月下旬頃(予定)
 ◇申請受付・問合せ
企画財政課 ☎0224-53-2112
 Eメール：kikaku@town.ogawara.miyagi.jp

町政覚え書き

第36回 景観政策を考える
～「歩きたくなる町」で健幸都市、観光振興～

大河原町長 伊勢 敏

1994年秋、深夜到着したパリのホテルを翌朝出発したバスは、凱旋門を目指し市街地をゆっくり走る。車窓の光景を目にしているうちに、涙が溢れ、体がガタガタ震えた。

街並みの桁外れの美しさに言葉が失った。建物は7階以下に規制され、個々の建物の造作は個性的。最近、ある地図のサイトの航空写真で確認したところ、少なくとも本町がすっぽり入る地域全域に美しい街並みが広がっている。

パリ改造を行った19世紀中葉のセーヌ県知事オスマンは、交通、衛生、治安、人口分散等に加え美観も重視した。街路を「移動のための手段」としてだけでなく「歩く人が見て楽しむ存在」に変えた。

1967年の規制緩和後に59階のモンパルナスタワーが建てられたが、高層ビルはパリの伝統的な都市景観を損なうとして、規制強化へ転じた。

1977年の改正により、パリ中心部(再開発区域)は最大でも37mに制限され、歴史的な地区ではより厳しい規制がかけられることになった。

良好な景観は観光客の誘客

など、都市の発展につながる。

伊勢神宮内宮近くの土産物店等が並ぶ「おかげ横丁」は、電柱の地下埋設など景観を改善した結果、平成5年に30万人だった観光客は10年後に320万人に増えた。また、長野県小布施町(人口1万人)は、昭和56年の長期総合計画以降35年間、歴代町長が景観改善に注力し、年間120万人の観光客を誇るに至った。

さて、本町は、「NEXT大河原ゆめプラン」で長寿健康社会の創造を目指している。

また、昨年末に策定した「大河原町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の主要な取り組みの「健康増進『歩きたくなる町』創造」において、景観改善の取り組みが含まれる。

多くの自治体が、健康増進を目的に様々な施策を講じ、住民の参加を訴えてきたが、参加する住民の「3割の壁」を破るのは難しい。

これを放置することは、許されない。健康が幸福の大前提であるとの理念のもと、この実態の改善に向け、7年前に「SWC スマート・ウェルネス・シティ・首長研究会

が発足した。7年間取り組んだ結果、医療費の大幅縮減を果たした自治体を輩出、歩いて暮らせる「コンパクトシティ」にも取り組んできた。

本町は2年前にSWCに加わった。コンパクトシティは既に形成されているが、健康を意識して歩く人は少ない。行政が健康のため歩くことを推奨しなくても、「自発的に」歩きたくなる町を創造する

方策に思案を巡らせてきた。そこで、街並み景観や里山景観などを改善し、散策しやすくなる魅力ある町の創造を念頭に、「歩きたくなる町」を「大河原町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の主要事業に位置付けた次第である。

この取り組みは、町民の知恵と長い年月を必要とする。「良好な景観は、そこに暮らす人々に快適さや豊かさ、ゆとりを与え、訪れる人々を引き付け、町に賑わいと活気を呼び起こす原動力にもなる」

平成18年「小布施町景観計画」。まずは、町民の幸福及び観光の振興に寄与する景観改善に向けたビジョンの策定が求められよう。【3月21日】



「まちの本棚」

駅前図書館今月の新刊

一般/■そのとき、あなたは実家を片づけられますか？ 小山田容子/漫画 安藤英子/監修 扶桑社
 汚屋敷の「無間地獄」から抜け出して、実家を「天国」に！5軒以上の実績を持つ「片づけの伝道師」が教える、失敗しない実家の片づけ方。親がその気になる片づけ術を漫画でわかりやすく紹介します。
 小説/■年下のセンセイ 中村航/著 幻冬舎
 みのり28歳。恋は3年してこない。通い始めた生徒花教室で、8歳年下の透と出会ったけれど、この気持ちは封印しなければいけない。我慢することが大人の恋だと思っていた。ハピルス連載を単行本化。児童/■五感ってナンだ！まるごとわかる「感じる」しくみ 村山紳一郎/著 坂井建雄/監修 誠文堂新光社
 見る、聞く、かぐ、味わう、さわるという5つの感覚(五感)について、詳(くわ)しい図などを用いてわかりやすく説明。普通(ふつう)の人に比べてすぐれた感覚を持っている人の秘密、動物の持つているすぐれた五感も解説する。五感にまつわる身近な疑問にも答えます。
 児童/■増ノ浦に消えた剣 小森香折/作 染谷みのる/絵 偕成社
 増ノ浦(たんのうら)の戦いで海にすんだ伝説の宝剣(ほうけん)。それを水軍松浦党(まつら)がひそかに引きあげ持ちかえったという、いつたえがあるらしい。アンとリックは、その子孫から九州の唐津(からつ)にまねかれ宝剣をさがすことに…。絵本/■はんのじかん レベッカ・コップ/文 絵 おーなり由子/訳 ポプラ社
 おひる(ひる)はのじかんがきたけど、わたしはまだおなかがすいていない。「はやくたべて」ってママがこわいこわいから、テーブルにいたけど、わたしはすわったまんま。「はんは、はんのまんま。すると、おしゃべりなママ、おおきなく、オオカミのほつやがあらわれてわたしのおひる(ひる)はんをたべてもいいか？」ってきいてきて…。